



最終報告会

I'MPOSSIBLE



目次

1. I'MPOSSIBLEの概要

2. 活動報告

- ・ 車椅子体験会
- ・ 模擬体験

3. まとめ

①I'MPOSSIBLEの概要（5月時点）



I'MPOSSIBLE



目的1. 大学生にパラスポーツを知ってもらいたい

目的2. 2028年長野県全国障害者スポーツ大会へ意識付け

〈内容（実施時期）〉

1. 障害のある人の**擬似的体験**（9～11月）
2. **スポーツ大会**の実施（9～11月）
3. "身の回りの障害"をテーマにした**対話**（8月 オンラインor対面）
4. パラスポーツやUDに関する**学内インタビュー**や**ポスター掲示**（通年）
5. SNS等での**情報発信**（通年）



活動報告① 模擬体験

目的：

- ①普段歩くことと車椅子に乗って移動することの違いを感じてもらう
- ②普通の車椅子と競技用車椅子の違いを知ってもらう

内容：校内にいる人に車椅子を試乗してもらう

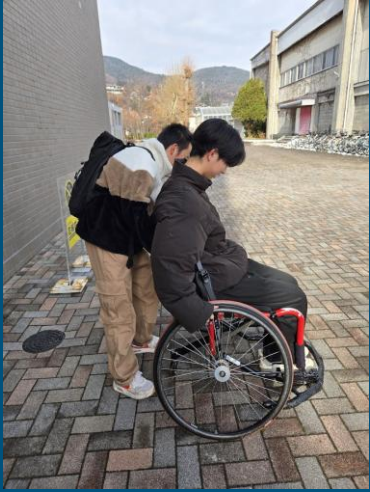
費用：0円

成果：車椅子に乗る経験をさせることができた

反省点：回数を多く重ねることができなかった

活動の様子





活動報告② 車いすバスケ体験会

目的：子どもに対してのparasports普及活動

内容：

根羽村の義務教育学校「根羽学園」での総合の時間に車椅子バスケ体験会を行った

費用：交通費、レンタカー代

成果：parasportsの経験がない子ども達にその楽しさを伝えることができた

反省点：体験前の車椅子バスケットの説明時に、一方的な知識の教授となってしまう、対話的に説明を進めることができなかった

→理解度が低かった可能性

2024/12/09 車椅子体験会の流れ

時間	内容	備考
13:00	根羽学園到着	ハイエースを体育館脇の駐車場に停める
13:00~13:50	車椅子の搬入	その他コート作りなども済ませる
13:50~14:00	体験会開始、導入	導入:てっぺー
14:00~14:10	車椅子に乗る、チーム分け	チーム分け:がいあさん
14:10~14:15	準備体操	車椅子に乗ったまま
14:15~14:30	車椅子の操作説明、試乗	説明:てっぺー
14:30~14:40	リレー	適宜補助
14:40~14:50	しっぽ取りゲーム	車椅子の後ろにビブスをつける
14:50~15:05	シュート練習	適宜補助
15:05~15:25	試合	試合時間は検討中
15:25~15:35	振り返り	アンケート調査を実施
15:40	体験会終了	終了後片付け

※要所要所で様子を見て休憩を入れます。

※がいあさん達にはチーム分け(計3チーム)をしてもらい、いずれかのチームに属して、作戦会議をしたりなどの補助をお願いしたいです。

※体育館は基本大きく1面を使いたいです。試合時は、縦の面でやるか横の面でやるかは当日の子どもたちのシュートの様子で判断します。(シュートがどのゴールの高さまで届いているかです。確認ですが、横面より縦面の方がゴールの高さは高いですか?)

※後日アンケートフォームを送ります。(アンケートはPCを使用予定なので、PCの持ち込みが可能でしたらお願いします。)









全体の反省点

- ・スポーツ大会を開催することができなかった

- イベントの開催時期と季節の兼ね合いを考えられていなかった

- 夏の暑い時期に運動をすることへのリスクが高かった

- ・実際に障害をもった人との対話の機会を取ることができなかった

- ・SNSでの広報ができなかった

- ・体験会やイベントの際にインスタのフォローを呼びかけることができなかった

決算

予定					
番号	品名、工事名、用務先等	規格、その他内容等	数量	金額(円)	順位
1	ポスター用紙 (A3)	500枚	1	1932円	1
2	ポッチャボールセット	ポッチャ	2セット	37260円	2
3	ブラインドサッカーボール	ブラインドサッカー	4つ	25960円	3
4	伴走ロープ	ブラインド陸上	4つ	10820円	4
5	アイマスク	ブラインドサッカー	10個	4650円	5
6	交通費	長野-松本、松本-長野 (交通費)		4000円	6
7	印刷代	ポスターのカラー印刷	30枚	1500円	7
8	養生テープ	コートラインの整備	3セット		8
9	講師代	パラスポーツ指導	1回分	6000円	9

決算

	1. 実際に購入した代金
1	32,560円（レンタカー代）
2	8,213円（ガソリン合計）
3	長野→松本、1,580円（高速料金）
	松本→、飯田山本2,880円
	飯田山本→松本、2,880円
	松本→長野、1,580円
	⇒8,920円(高速料金合計)

まとめ

【得られた成果】

- ・実践してみることに
- ・実践してみると体験会や模擬体験の反応は良く少しの時間の体験でも楽しんでもらえている様子であった
- ・これを足がかりにより大きなイベントへの参加を促すことができた可能性

【見つかった課題】

- ・活動の周知方法を工夫する必要がある

謝辞

多くのみなさまのご支援ありがとうございました！